



劇団イング公演

# EDDIE



エディ

**伝説の名トレーナー、エディ・タウンゼントと彼の最後の弟子、井岡弘樹。  
実話を元にした二人の熱い師弟愛を描いたストーリー**

ジブシートレーナーと言われ、数多くのチャンピオンを育ててきたエディ。しかし国内ボクシング界の資金事情により、チャンピオンを自らの手で一から育てたことがなかった。

ある日、ダイヤの原石の少年と出会う。まだ中学生だった井岡弘樹である。友であり、師弟である二人は、互いに信頼を深めながら、チャンピオンロードを歩んでいった。

この物語は、井岡がチャンピオンになり、初防衛戦に勝利するまでを描いた物語である・・・

## Staff

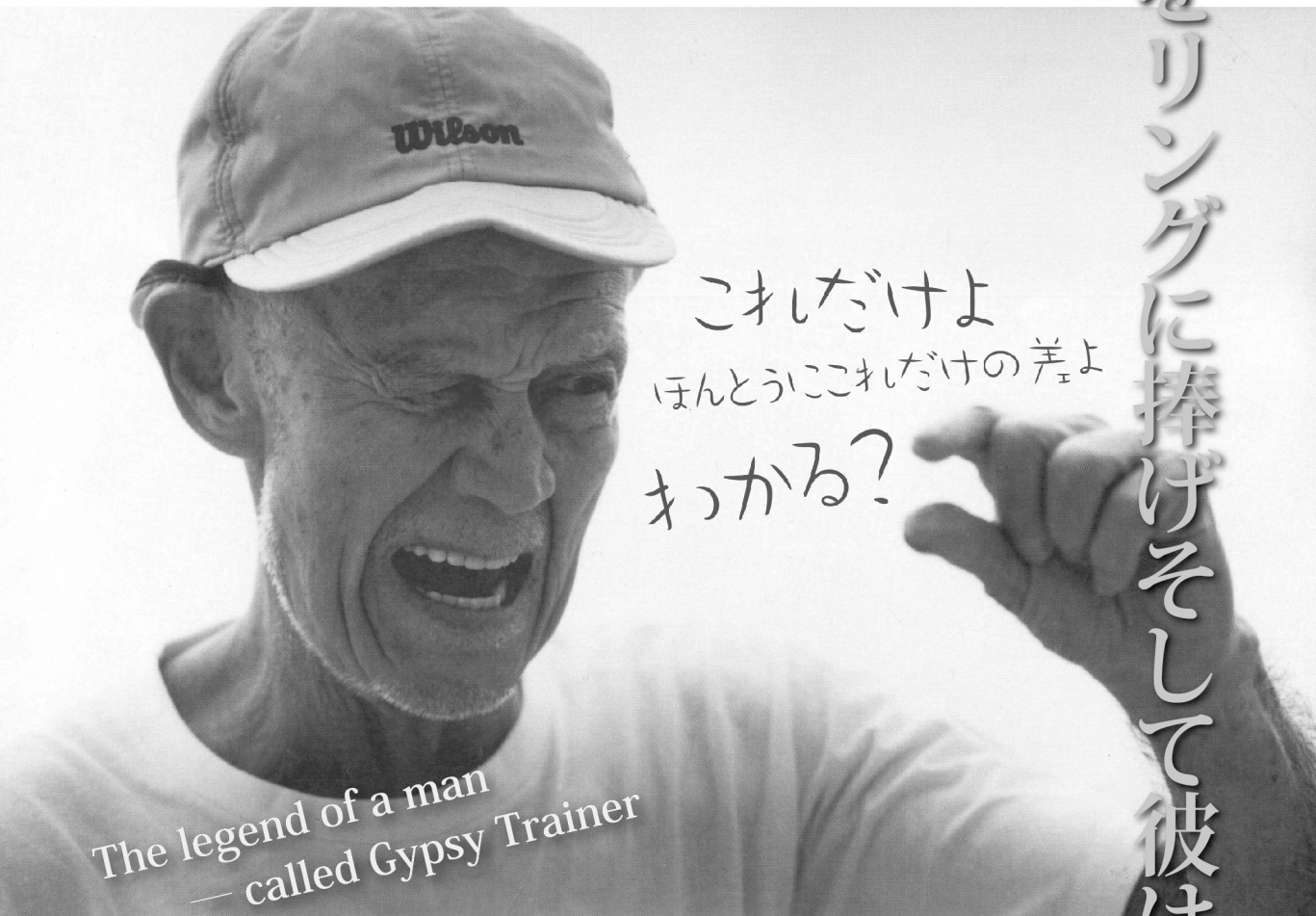
作/演出：藤井 つとむ  
照明プラン：秋吉 典幸  
音響プラン：今西 工  
音楽：大塚 博文  
唄：MIQ

ナレーション：佐久間 なつみ  
照明：梶ライティングデザイン アルテ・シェーナ  
音響：山北舞台音響 中西 梢 岸田 直人  
協力：(株)パブリックアートカムパニー (株)ウイニング 金子ボクシングジム  
製作：劇団イング (株)影向舎

# エディ・タウンゼント

EDDIE

TOWNSEND



生涯をリングに捧げそして彼は伝説となった

世界の頂点を極めた英雄の影には彼がいた。敗北し肩を落とす勇者の影にも彼がいた。1914年10月4日、ホノルル市において、弁護士之父と日系女性の母の間に生まれる。エディ3歳の年、母親は急死。自称「喧嘩坊主」は、14歳でボクシングに取り憑かれ、高校在学中、ボクシングジムにスカウトされる。'32年、全ハワイ（アマ）フェザー級チャンピオンに。アマ戦績、147戦134勝13敗。'36年、プロへ転向。13戦無敗を誇るが太平洋戦争勃発により、ボクサーを断念し、若い選手を育てようと、トレーナーを決意。'62年初夏力道山と出逢い、8月、来日。以降、各地のジムを転々とし、片言のニホンゴの迫力で選手の心を掴み、その名を馳せることとなる。

藤猛・田辺清・海老原博幸・カシアス内藤・柴田国明・ガッツ石松・村田英次郎・友利正・赤井英和・井岡弘樹一彼の手掛けた才能溢れるボクサー達である。

劇団インク主宰  
作・演出  
藤井つとむ



「選手が試合で負けた時はネエ、ボクがそばにいてあげるの」。

勝って人が群がってくる選手と、負けて周りに誰もいなくなった選手。エディさんにとっては一人ぼっちになった選手を見るのが何よりも辛かったようです。「トレーナー大切なのはネエ、ラフですよ。あの変なのラフでないよ。ハートのラフよ」。負けた選手のそばには常にエディさんの姿があったといいます。

しかし、反面エディさんは多くの選手を勝利へと導いていったことも事実です。「ボクはネエ、神様に1日1時間、時間あげるの」。戦いを強いるトレーナーとして、戦う者の悲哀を知る人間として、様々なジレンマのなかでエディさんは何を祈ったのでしょうか。

エディさんは73歳で亡くなりました。亡くなる直前まで病氣と闘いながらボクシングトレーナーという厳しい仕事をやり遂げました。エディさんが入院を繰り返してトレーナーを続けることができなくなってきた時、「新しいトレーナーに替えるんですか？」という記者の質問に、教え子の井岡弘樹選手はきっぱりと言い切りました。

「僕のトレーナーはエディさんです。エディさんに教えてもらったことを思い出しながらやります！」しかしエディさんは帰らぬ人となりました。

かつてエディさんに教えてもらった数多くの選手達。その選手達の心の奥底に今もエディさんは生き続けています。そして彼らは言います。「僕がいちばんエディさんに愛されたんだ」と。そんなエディさんをどこまで描けるか、舞台というリングで今度は私達が戦う番です。

## 関係者が語る『エディ・タウンゼント』

### エディの弟子たち

#### この物語の主人公 井岡弘樹

元WBCミニマム級世界チャンピオン  
元WBAライトフライ級世界チャンピオン  
井岡ボクシングジム会長



僕は14歳でエディさんと会いました。練習は厳しかったですが OK BOY と言って、僕のいい所を誉めながら伸ばしてくれました。練習後は僕の部屋で寝食を共にし、一般人としてのマナーや人との接し方なども教えてくれる年齢差を感じない兄のような存在でした。

末期ガンのエディさんは僕の初防衛戦の勝利を見届け7時間後に亡くなりました。僕に命がけで接してくれたエディさん、ありがとう!!

#### 赤井英和



元WBCJウェルター級8位  
この芝居をご覧になって、エディさんのあつたかさや優しさを持って帰って、大事にして下さい。それはきっと皆さんを幸せにしてくれることと信じています。僕も、宝にしています。

#### ガッツ石松



元WBCライト級世界チャンピオン  
「男には勝負しなければならない時がある」エディ・タウンゼントさんのことを想う時この言葉が頭をよぎる。2回目の防衛戦の時、11R、コーナーに戻るとエディさんは、オレの耳元で怒鳴った。「石松、この試合あなた負けてるよ、これケンカよ、アイツぶっ飛ばすのよ!!」12R「幻の右」が見事に決まり一発逆転、防衛に成功した。

#### 田辺 清



元日本フライ級チャンピオン  
ローマ五輪銅メダリスト  
劇団インクが、エディさんの「ハートのラブ」を演じて、今も活躍中とのこと。大変うれしく思っています。「神様とケンカできないの」主役エディ・藤井のたどたどしい日本語が、観ている人々の心を捕らえてやまないからでしょう。いつまでも続けて欲しい。そんな気持ちで一杯です。

#### 村田英次郎



元WBAバンタム級第1位  
エディタウンゼントジム会長  
エディさんの教える技術には素晴らしく高度なものがありました。それ以上に幾つになってもやんちゃ坊主で、でも親父の様に厳しく、そして優しい思いやりを持っており、友達のようにユニークで楽しくさせてくれました。安心してリングに上がり試合をさせてくれた最高のパートナーでした。



#### 百合子タウンゼント エディ・タウンゼント夫人

ボクシングに一生を捧げた主人を尊敬し誇りに思います。トレーナーとなってからの35年間、時には選手に主人をとられたようで寂しくて嫉妬すら感じたこともありましたが、しかし、主人がそうであったように私にとっても選手は大事な子供達でした。我が娘シャーロンとダーナ、そして沢山の選手達。それは私の大切な宝物です。